

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 29 年 7 月 8 日
＜第 3 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第 5 回講座「授業づくりの基礎③～学校における道德教育と特別の教科 道德～」

平成 29 年 6 月 10 日（土）に、道德教育や道德の時間の目標、道德の内容、指導のポイントについて理解することをねらいに、第 5 回講座を行いました。

初めに、東京教師養成塾担当の木村良平教授が「道德教育と特別の教科 道德について」をテーマに講義を行いました。木村教授からは、道德に係る小・中学校学習指導要領一部改正の概要や道德教育と特別の教科 道德との関係について説明がありました。また、東京教師養成塾担当の信方壽幸教授、坊野美代子教授からは特別支援教育における道德教育の位置付けについて話がありました。

続いて、東京教師養成塾担当の近谷幹男教授が文部科学省「わたしたちの道德」（小学校 3，4 年）を出典とする「ブラッドレーの請求書」を教材に模擬授業を行いました。今回は、道德科の内容項目 C「主として集団や社会との関わりに関する事」の「家族愛、家族生活の充実」の中で、「父母や祖父母を敬い、家族と力を合わせて楽しい家庭を築こうとする心情を育てること」をねらいとして授業を実施しました。

模擬授業では、導入、展開の前半、後半、終末の各段階のねらいや教材の提示、発問の工夫等の解説があり、塾生は指導過程と指導のポイントへの理解を深めました。終末では、「親は千里に行くとも子をわすれず」という言葉を提示し、親の気持ちを伝え、まとめました。

講義終了後、塾生は「道德教育や道德の時間を充実させるために担任として意識すること」をテーマに班別協議を行いました。塾生からは、「中心発問を柱に授業づくりを行うこと」「学級経営をしっかりと行い、全ての教育活動を通じ道德教育を展開することが大切」等の意見が出され、道德教育への理解を深めました。

【塾生の感想より】

- ・道德の授業における考える時間の大切さと、その時間を確保する見通しをもった授業展開の工夫を学ぶことができた。
- ・7 月に道德の授業実践があるので、今日学んだことを生かして、中心発問がしっかりと定まった授業づくりと、考え話し合う授業づくりに挑戦していきたい。



—後半で言葉を提示する教授—

●第 6 回講座

「学習指導要領の改訂の方向性～アクティブ・ラーニングの視点による授業改善～」

平成 29 年 6 月 24 日（土）に、國學院大學 人間開発学部初等教育学科 教授 田村 学先生を講師に招いて、学習指導要領の改訂と主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善のポイントについて、講義・演習を通して学びました。今回は、教職に就くことを志す大学生に講座を公開し、関係大学の学生を中心に約 90 人が参加しました。

田村先生からは、学習指導要領改訂の背景、方向性、探究的に学びに向かう子供の姿、言語活動の充実等の視点から御講話をいただきました。講義の中で、受講者同士で話し合ったり、話し合いの内容を紹介したりすることを通して、主体的・対話的で深い学びについて具体的に体験できる場面が随所にありました。また、実際の授業の写真が提示され、教師が指導すべきポイントについて理解を深めることができました。塾生及び一般の大学生は、生き生きと講義を聞き、話し合いに取り組んでいました。

続いて、東京教師養成塾担当の村上正昭指導主事が「主体的・対話的な学びをテーマとする授業づくり～言語活動の充実を通して～」をテーマに講義を行いました。田村先生の講義を受け、10 月 15 日の公開講座で行う模擬授業の主題「主体的・対話的な学び」及び言語活動の充実についての説明がありました。

講義終了後、塾生は「学習指導要領の改訂と主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善について、今後の授業づくりに生かせること」をテーマに班別協議を行いました。主体的・対話的な学びをいかに実践していくのか、どのように言語活動を充実させるかについて、指定校での授業実践等を踏まえた話し合いが活発に行われました。

【塾生の感想より】

- ・講義中に、場面ごとに隣同士で話し合うことで、新しい発見があったり、自分で考えを深めたりすることができた。授業実践をする際に、子供たちがこのような経験をできるよう工夫していきたい。
- ・教師にとって大切なことは、授業力を磨くことだと改めて理解することができた。

●第1回 英語講座

平成29年6月24日(土)の午前中に、英語及び外国語活動の指導の基礎を身に付けることをねらいとした英語講座が実施されました。この講座は、年間8回実施し、指導法習得、クラスルーム・イングリッシュや東京都独自教材の活用等について学びます。第1回は、確認テストの実施と自己紹介やよく使う英語表現について学びました。

●第1回 自主ゼミナール

平成29年6月24日(土)午前中に、東京教師養成塾修了生及び教職経験3年までの方々が参加しました。小学校コースは体育の授業づくり、特別支援学校コースは、算数科の授業づくりがテーマでした。どちらのコースでも現職での経験を生かして、活発なグループ協議が行われました。第2回は、7月22日(土)午前中に計画しています。

【連載シリーズ コラム③】

◆ 児童・生徒理解を図る —共感的理解・具体的なスキルの習得— ◆

東京教師養成塾教授 味村 和行

塾生が特別教育実習で指定校に行き始めて約3か月が経ちました。この間、配属された学級を中心として、様々な経験を積んできました。その中で課題と直面し、それを乗り越えようと努めてきたことは、教師としての資質の向上につながっています。まず、塾生にとって大きな課題となったのは、何とんでも児童との人間関係づくりでした。年度初めは、毎週1回の指定校での実習のため、名前を覚えるのが精一杯で、望ましい関係をつくるには難しいものがありました。毎週の実習や週を通しての連続実習など、回数を重ねながら、児童との距離を縮めてきました。今後も、より一層、望ましい関係をつくっていくことを期待しているところです。教師にとって、児童・生徒理解を深めて信頼関係を築くことは、学級経営の根幹となります。

さて、児童・生徒理解は、児童・生徒一人一人の能力や特性、興味・関心や願いなどについて、それぞれの個性を知ることです。小学校コースを例にすると、塾生は、児童と一緒に休み時間に遊んだり掃除や給食を共にしたりし、児童理解を深めています。時として、問題のある行動を取った児童を指導するという場面もあります。こんな時、一方的に叱っても効果は期待できません。初めから否定されてしまっただけで心を閉じて自分の気持ちを正直に話すことはできないでしょう。まず、正対して話を聴き、共感的に受容して、指導に当たることが肝要です。指定校での日々の活動そのものがスキルアップにつながっています。養成塾では、今月、「教育相談の機能を生かした児童・生徒理解」についての講義やグループ演習を行う予定です。そこでは、ロールプレイングを通して、具体的なスキルを身に付けられるようにし、指定校での実習に生かすことができるようにしていきます。

塾生は、7月までの形成期に多くの経験と学びを得て、9月からの伸長期を迎えます。この時期に、児童・生徒理解の基盤として力を付け、実践的指導力が向上するよう一層指導に努めてまいります。

【連載シリーズ コラム④】

◆ ねらいに即した授業づくり ◆

東京教師養成塾教授 近谷 幹男

今年度4月に入塾した東京教師養成塾の第14期生が教師生活のスタートを切る平成30年度は、道徳科が、他の教科等に先駆けて、新しい学習指導要領に則って実施されることとなります。

これまでの登場人物の心情理解に終始するような読み取りの授業や、望ましいこと、決まりきったことを言わせたり書かせたりする授業から、自分との関わりで道徳的価値を考える授業を目指し、自分自身を見つめ、人物に共感し自分との関わりで気持ちを想像する学習活動を展開していくよう改善を図ることが大切です。また、子供が自らを振り返って成長を実感できるように工夫したり、これからの目標を見付けることができるように工夫したりすることで、主体的な学びを充実させていくことが重要です。

こうした道徳教育、道徳科の方向性について、東京教師養成塾では、「授業づくりの基礎」という講座で塾生に指導するとともに、「指導に関する相談」をする機会を設けて授業づくりについての質問に答えています。

また、子供たちが、ねらいとする道徳的価値について深く考え、自分を見つめる授業を展開するために、基盤となるのが豊かな学級経営です。塾生には、次のようなメッセージを発信しています。

- ・ 道徳科に限らず、教師と子供との人格的な触れ合いによる共感的な理解、実態把握に努める。
- ・ 子供が考えたことや感じたことを丁寧に受け止め、成長を見守り、努力を認め励ます。
- ・ 子供たちの個性や可能性を伸ばすため、豊かな心を育む学級の風土を大事にしていく。

教師として、担任として充実した授業を展開する力を身に付けていくため、特別教育実習の指定校の先生方の授業や学級経営の観察を重視するよう指導していきます。